



2026年4月16日

各 位

会社名 HENNGE株式会社
代表者名 代表取締役社長 小椋 一宏
(証券コード: 4475 東証グロース)
問合わせ先 執行役員 小林 遼
(TEL. 03-6415-3660)

新サービスに関するお知らせ

HENNGE株式会社（所在地：東京都渋谷区、代表取締役社長：小椋 一宏）は、この度、当社グループのクラウドセキュリティサービス「HENNGE One」のさらなる付加価値創出に向けた取り組みの一環として、「HENNGE Mesh Network」、「HENNGE Password Manager」及び「HENNGE Domain Protection」を新たに提供開始する旨を公表いたしましたので、お知らせいたします。

これらはネットワーク運用、ID・パスワード管理、ドメイン管理、それぞれにおけるセキュリティ対応力を高めるサービスです。特に「HENNGE Mesh Network」は、ランサムウェア等の被害で対象となっている既存VPN機器の課題に対処するものであり、2026年3月に提供を開始した「HENNGE Endpoint & Managed Security」含め、既存のHENNGE Oneの機能群とあわせ、顧客のゼロトラスト導入及び運用を強力に後押ししてまいります。

各サービスの詳細につきましては、別添のプレスリリースをご参照ください。

なお、本件による当社の連結業績への影響は軽微と見込んでおりますが、中長期的に当社の業績及び企業価値向上に資するものと考えております。今後公表すべき事項が生じた際には、速やかにお知らせいたします。

【添付資料】

プレスリリース：

- ・ HENNGE、脱VPN・PC端末のゼロトラストを実現する次世代ネットワーク「HENNGE Mesh Network」を提供
- ・ HENNGE、SSO非対応のシステムやSaaSの認証情報を統合管理できる「HENNGE Password Manager」を提供
- ・ HENNGE、なりすましメールを検出、対策への指針を示す「HENNGE Domain Protection」を提供

以 上

HENNGE、脱VPN・PC端末のゼロトラストを実現する次世代ネットワーク「HENNGE Mesh Network」を提供

～ 認証端末から必要なリソースにのみアクセスしリスクを最小化、複雑な設定や構築なしで利用可能 ～

HENNGE株式会社(本社:東京都渋谷区、代表取締役社長:小椋 一宏)は、クラウドセキュリティサービス「HENNGE One」において、従来型VPNの脆弱性を根本から解消する新サービス「HENNGE Mesh Network」を2026年10月以降に提供開始することをお知らせします。独自のP2P(Peer-to-Peer)通信技術を活用することで、PCなどの端末をインターネット上の攻撃対象から隠蔽しつつ、必要なリソースにアクセスできます。HENNGE OneのID連携サービスの新機能として提供します。

HENNGE One

Mesh Network

Identity Edition

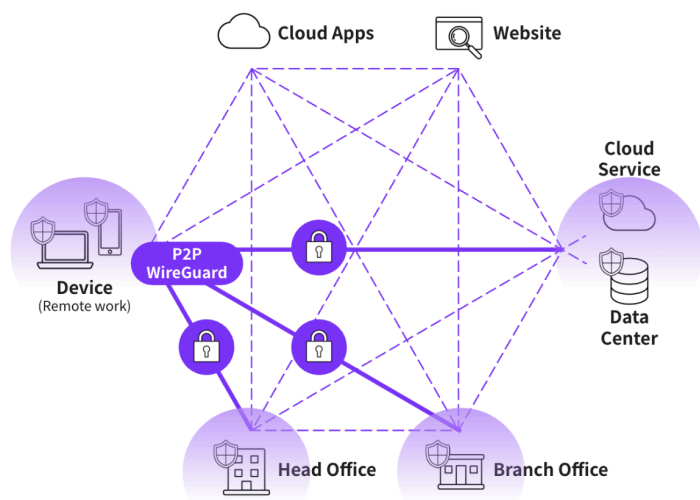
これまで企業ネットワークの主流だった境界型の防御モデルは、VPN機器の脆弱性を突いたサイバー攻撃の急増で、その限界が見えてきています。内部ネットワークへの侵入者は重要リソースにアクセス可能となり、ランサムウェアによる多額の身代金、大量の個人情報の窃取などさまざまな重大インシデントに至っています。情報システム部門のセキュリティ担当者の負荷もこれまでにないほど高まっており、多額の対応投資も必要となっています。

こうした課題に対してHENNGEは投資先であるRunetale社と連携し、同社の技術を活用してHENNGE Mesh Networkのサービスを開発。企業内ネットワークという「場所を守る」ことから、「誰(アイデンティティ)であるかで許可する」というゼロトラストの現実解を提供することにしました。認証

されたユーザーの端末のみが必要なリソースへ接続できるメッシュ型のネットワーク環境を実現します。ルーターの複雑な設定や高価なシステムインテグレーションも不要です。

脱・従来型VPN、ゼロトラストを実現する3つの特長

HENNGE Mesh Networkは、情報システム部門がネットワークのコントロールを取り戻し、脱・従来型VPN、ゼロトラストを実現することを支援します。大きく3つの特長があります。



1 VPN機器の脆弱性から解放し、アタックサーフェスを最小化

ランサムウェアなどの攻撃の入り口になりやすいVPNゲートウェイなどの機器を廃止し、エンドポイント(端末)間でメッシュ状の通信を確立するゼロトラスト型のネットワークを構成できます。インターネットなど外部からの攻撃対象となるアタックサーフェスを必要最小限にすることで、脆弱性の対応に追われる情報システム部門担当者の負担を軽減します。

2「マイクロセグメンテーション」による横展開の阻止

物理的なルーターの設定を変更することなく、ソフトウェア上で通信範囲を細かく分割する「マイクロセグメンテーション」に対応しています。以下のような機能で悪意を持った攻撃に伴う横展開を阻止します。

- ・最小権限の原則:ユーザーIDやグループ単位で、業務に必要なリソースのみにアクセス権を限定します。

- ・被害の極小化:万が一、1台のPC端末が感染しても、攻撃者が他のサーバーや端末へ移動することをソフトウェアによる制御で防ぎます。

3 Identity Editionとの連携によるガバナンス

- ・ID管理機能とのシームレスな連携:シングルサインオン(SSO)を中核とするHENNGE One Identity Editionのネットワークサービスとして提供します。ID管理とネットワーク制御が完全に連動

し、ITのガバナンスを保ちます。

・わかりやすく容易な操作性: アクセス経路の設定は、ブラウザ上のダッシュボードから数クリックで完結します。

情報システムの管理者にルーティング設定の高度な専門知識を必要とせず、ユーザーがアクセスするルートやサービスなどの設定・運用が可能です。

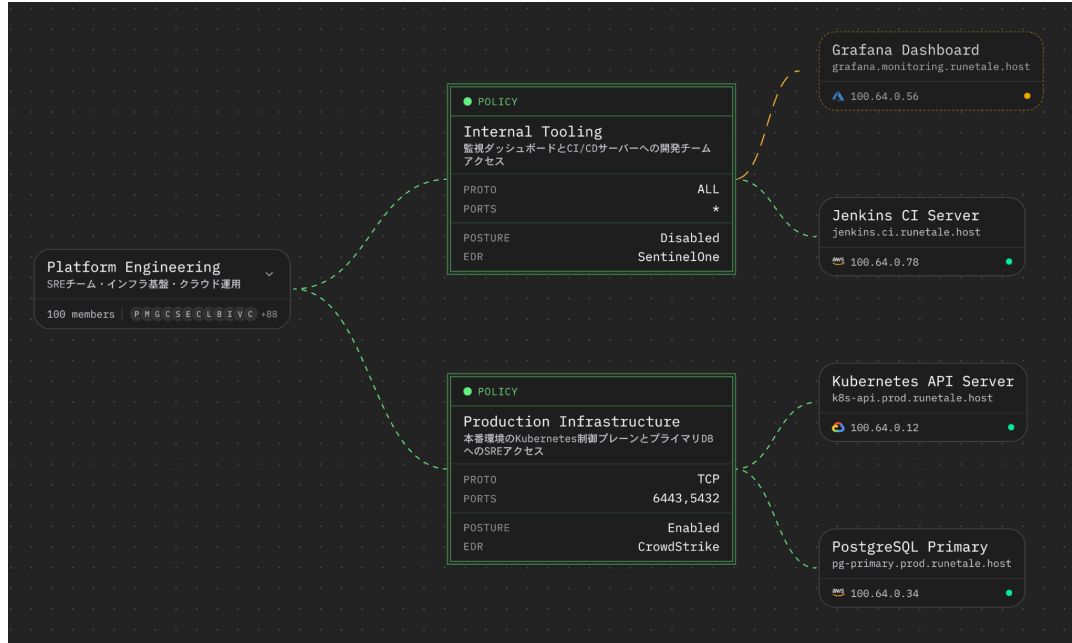


図 接続している端末やサーバーを可視化した管理画面(開発中のイメージです)

今後の機能強化

以下の機能強化に順次取り組んでいく予定です。

- ・ID管理機能との連動: 社員の退職や不審な挙動などを検知した際、HENNGE OneのID管理機能である「HENNGE Access Control」側でIDをロックすることで、Mesh Networkへのネットワークアクセス権も即座に消滅させることができます。
- ・デバイスポスチャーとの連携: クライアント側においてEPP /EDRなどでユーザー端末の脅威や異常を検知した場合、あらかじめ設定した条件で通信を切断します。

提供時期・提供形態

- ・提供開始: 2026年10月以降を予定
- ・提供形態: HENNGE OneのIdentity Edition内のサービスとして提供します。
- ・対応端末: Windows、Linux OS搭載の端末に対応し、専用ソフトウェアのインストールが必要です。リリース後に、macOS端末、スマートフォン(iOS端末、Android端末)に対応していく予定です。

■HENNGE Oneについて

HENNGE Oneは、組織の生産性向上を実現する国内シェアNo.1(※)のクラウドセキュリティサービスです。生産性向上には、SaaSをはじめとする最新テクノロジーの活用が不可欠ですが、そこにはゼロトラストセキュリティの構築などさまざまな課題が存在します。

HENNGE Oneでは3つのEditionを提供し、これらの課題を解決します。複数のシステムIDをまとめて保護し、効率的な働き方を実現する「Identity Edition」、組織に散在するデータの意図せぬ漏えいを防ぐ「DLP Edition」、人、プロセス、デバイスの全方位でサイバー攻撃から守る「Cybersecurity Edition」です。

導入と運用のハードルを下げるセキュリティサービスでゼロトラストを具現化し、テクノロジーの解放を実現します。

URL: <https://hennge.com/jp/service/one/>

■HENNGE株式会社(へんげ)について

「テクノロジーの解放で、世の中を変えていく。」を経営理念に、テクノロジーと現実の間のギャップを埋める独自のサービスを開発・販売しているSaaS企業です。シングルサインオン(SSO)、アクセス制御、メールやファイル共有のセキュリティ、ゼロトラストに基づいた端末の防御・管理など多岐にわたる機能を備えた国内シェアNo.1(※)のクラウドセキュリティサービス「HENNGE One」、クラウド型メール配信サービス「Customers Mail Cloud」を提供しています。1996年11月に創業し、2019年10月、東京証券取引所マザーズ市場(現グロース市場)に上場しました。

社名の「HENNGE(へんげ)」は「変化(HENNK)」と「チャレンジ(CHALLENGE)」を組み合わせ、あらゆる変化に挑むとの決意を表しています。

会社名: HENNGE株式会社

証券コード: 4475

所在地: 東京都渋谷区南平台町16番28号 Daiwa渋谷スクエア

代表者: 代表取締役社長CEO 小椋 一宏

URL: <https://hennge.com/>

※ ITR「ITR Market View: アイデンティティ・アクセス管理／個人認証型セキュリティ市場2025」IDaaS市場: ベンダー別売上金額シェアにて2021年度、2022年度、2023年度、2024年度予測の4年連続で1位を獲得

<本リリースに関するお問い合わせ先>

HENNGE株式会社

Corporate Communication Division

TEL: 03-6415-3660

E-mail: hennge-pr@hennge.com 担当: 市嶋・矢野

本プレスリリースに記載されている会社名、製品名、サービス名は、当社または各社、各団体の商標もしくは登録商標です。

HENNGE、SSO非対応のシステムやSaaSの認証情報を統合管理できる「HENNGE Password Manager」を提供

～ 共有ID・パスワードであってもユーザー単位でログ記録、アクセス権の設定が可能に ～

HENNGE株式会社(本社:東京都渋谷区、代表取締役社長:小椋 一宏)は、クラウドセキュリティサービス「HENNGE One」において、シングルサインオン(SSO)連携に非対応のWebサービスやシステムに対するパスワード管理サービスを提供します。共有IDやパスワードであっても、個人単位でセキュアに管理できるのが特長です。ID情報の流出に対してはPC側の鍵がないと復号できないため、極めて高いセキュリティを保てます。「HENNGE Password Manager」として、2026年10月以降に提供を開始する予定です。

HENNGE one

Password Manager

Identity Edition

企業システムのクラウド化が進み、一度のログインで複数のサービスを利用できるようにするSSOが普及しています。

一方で、多くの企業において、認証情報をSSOで管理できないシステムやSaaSも利用されています。結果として、ID・パスワードの情報を従業員がPCのWebブラウザに記憶したり、Excelに記したりしており、情報システム部門の管理対象外となっています。弱いパスワードを使ったり、パスワードを使い回したりしている問題点も指摘されています。

攻撃者は強固なSSOを破るのではなく、こうした企業システムの「より容易な侵入経路」を探し出します。システムやサービスで同一の共通ID・パスワードを共有し使い分けしているケースもあり、1つのインシデントの影響範囲も広がります。

また、ユーザーによるIDやパスワード忘れの問合せに対して、情報システム部門が対応する負荷も課題となっています。

HENNGE Password Managerの特長

HENNGE Password Managerはこうした課題に対して、セキュリティと利便性を両立させながらあるべき状態とのギャップを埋め、ユーザーに負担なく導入・運用が可能です。特にSSOに非対応のシステムやサービスにおいて、共有IDをセキュアに運用できる点にメリットがあります。企業規模の拡大に合わせてスケールできる設計となっています。

1. 組織やチーム内での役割を設定し、操作を可視化



レコード名	セキュリティ	最終更新	共有モード	オーナー	ラベル
bizmates.jp	非常に強い	たった今	マルチ管理者	HENNGE K.K.	学習
figma.com	中	たった今	マルチ管理者	HENNGE K.K.	デザイン
fedex.com	中	1分前	共有	suzuki.jiro@hennge.com	マーケティング
newspicks.com	非常に強い	1分前	プライベート	sato.taro@hennge.com	プロジェクトA

図 HENNGE Password Managerレコード画面。プロジェクトや部署など、任意の単位でログイン情報を安全に共有できます

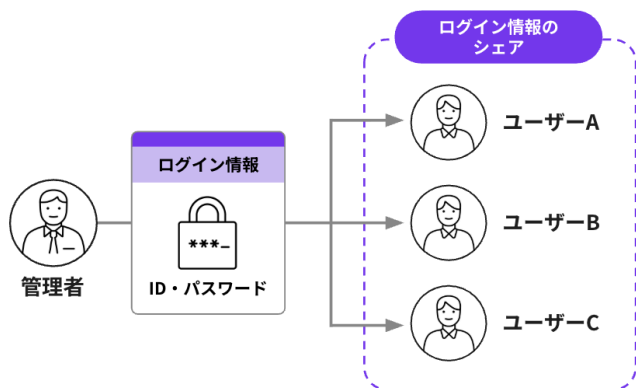
ユーザー権限の細分化: 各ユーザーに対して、「編集可能」「読み取り専用」など、役割に応じた、ログイン情報へのアクセス権限の設定が可能です。

利用ログの可視化: ユーザーのログイン履歴はもちろん、組織から共有したログイン情報についても、「誰が、いつ、どこから、どんな操作(情報を閲覧、更新、コピー、共有)を行ったか」をすべて記録してダッシュボード上で可視化します。

利用ログには操作時刻やIPアドレスから推定した場所などの情報も記録され、不正アクセスの兆候を早期に検知可能にします。

1. 安全なシェア

ID・パスワードをさまざまな利用者に管理画面上でシェアできる。



※「編集可能」「読み取り専用」など、ログイン情報へのアクセス権限の設定が可能

2. 利用ログの確認

シェアしたID・パスワードの利用状況を確認できる。



図 HENNGE Password Managerにおけるアカウント情報の共有と管理

2. 流出した情報を悪用できない高いセキュリティ

HENNGE Password Managerでは、サーバー側にパスワードを復号する「鍵」を一切保存しないゼロ知識アーキテクチャ (Zero-Knowledge Architecture) を採用しています。暗号化したパスワードなどの情報は、ユーザーの手元にあるデバイス内に保存された鍵でのみ復号・再暗号化できます。万が一、HENNGE Password Managerに保管された情報が流出したとしても、復号に必要な鍵はユーザーのみが保持しているため、第三者が情報を閲覧することは理論上不可能です。

3. ブラウザ拡張機能でパスワード管理を支援

PCやMacなどの端末に、Chrome専用のブラウザ拡張機能をインストールすることで、便利に利用できます。ログイン情報のHENNGE Password Managerへの自動保存、ワンクリックでの強力なパスワード自動生成や、保存されたログイン情報のウェブサイト上での自動入力に対応しています。なお、HENNGE Password Managerのサービス管理コンソールでも、ログイン情報の管理や、強力なパスワードの生成が可能です。

HENNGE Password Managerの主な利用ケース

SSO連携機能に非対応のSaaS

ITベンダーなどが提供しているSaaSにおいて、SSOによる認証ができず、個別にID、パスワードの管理が必要なもの。ユーザーIDの設定が煩雑なため、共通のID・パスワードを利用する場合も少なくありません。

SSOを可能にするSAMLやOIDCと呼ぶユーザー認証のプロトコルに対応していないサービスなどが当てはまります。

オンプレミスや独自構築のSSO非対応システム

従来型のWebシステムで、ユーザー企業が自社構築したもの、ITベンダーがパッケージで提供しているものなどで、SSOに非対応のものがあります。ビジネス上、取引先からWebシステムの利用を要請される場合もあります。

特に取引先企業から連携先企業として1IDなど限定した数のID・パスワードが提供されるケースがあり、特定のグループで共有することになります。

提供時期・提供形態

- ・提供開始:2026年10月以降を予定
 - ・提供形態:HENNGE OneのIdentity Edition内のサービスとして提供します。
- なおサービス料金やパッケージについては提供開始時に公表します。

■HENNGE Oneについて

HENNGE Oneは、組織の生産性向上を実現する国内シェアNo.1(※)のクラウドセキュリティサービスです。生産性向上には、SaaSをはじめとする最新テクノロジーの活用が不可欠ですが、そこにはゼロトラストセキュリティの構築などさまざまな課題が存在します。

HENNGE Oneでは3つのEditionを提供し、これらの課題を解決します。複数のシステムIDをまとめて保護し、効率的な働き方を実現する「Identity Edition」、組織に散在するデータの意図せぬ漏えいを防ぐ「DLP Edition」、人、プロセス、デバイスの全方位でサイバー攻撃から守る「Cybersecurity Edition」です。

導入と運用のハードルを下げるセキュリティサービスでゼロトラストを具現化し、テクノロジーの解放を実現します。

URL: <https://hennge.com/jp/service/one/>

■HENNGE株式会社(へんげ)について

「テクノロジーの解放で、世の中を変えていく。」を経営理念に、テクノロジーと現実の間のギャップを埋める独自のサービスを開発・販売しているSaaS企業です。シングルサインオン(SSO)、アクセス制御、メールやファイル共有のセキュリティ、ゼロトラストに基づいた端末の防御・管理など多岐にわたる機能を備えた国内シェアNo.1(※)のクラウドセキュリティサービス「HENNGE One」、クラウド型メール配信サービス「Customers Mail Cloud」を提供しています。1996年11月に創業し、2019年10月、東京証券取引所マザーズ市場(現グロース市場)に上場しました。

社名の「HENNGE(へんげ)」は「変化(HENNKKA)」と「チャレンジ(CHALLENGE)」を組み合わせ、あらゆる変化に挑むとの決意を表しています。

会社名: HENNGE株式会社

証券コード: 4475

所在地: 東京都渋谷区南平台町16番28号 Daiwa渋谷スクエア

代表者: 代表取締役社長CEO 小椋 一宏

URL: <https://hennge.com/>

※ ITR「ITR Market View: アイデンティティ・アクセス管理／個人認証型セキュリティ市場2025」IDaaS市場: ベンダー別売上金額シェアにて2021年度、2022年度、2023年度、2024年度予測の4年連続で1位を獲得

<本リリースに関するお問い合わせ先>

HENNGE株式会社

Corporate Communication Division

TEL: 03-6415-3660

E-mail: hennge-pr@hennge.com 担当: 市嶋・矢野

本プレスリリースに記載されている会社名、製品名、サービス名は、当社または各社、各団体の商標もしくは登録商標です。

HENNGE、なりすましメールを検出、対策への指針を示す「HENNGE Domain Protection」を提供

～ ダッシュボードで現状把握やDMARCのメール受信ポリシーの設定を支援、自社への偽装を防ぎブランドを保護 ～

HENNGE株式会社(本社:東京都渋谷区、代表取締役社長:小椋 一宏)は、クラウドセキュリティサービス「HENNGE One」において、自社ドメインを悪用したなりすましメールを検出、対策する新サービス「HENNGE Domain Protection」を提供することをお知らせします。なりすましを防止する「DMARC」と呼ぶ仕組みを自社ドメインへ容易に導入し、運用できるようにします。2026年10月以降に提供を始めます。

DMARCに対応することで、メール送信者のアイコンに企業の公式ロゴを表示させる「BIMI」を導入しやすくし、ブランド保護につなげることが可能です。



HENNGE Domain Protectionは、HENNGEが提唱するゼロトラスト戦略の重要コンポーネントとして、ID管理、エンドポイント保護、データ漏えい防止に加えて、企業の信頼の基盤であるメールドメインの保護を実現するものです。

サイバー攻撃者は、AIなどの最新技術を悪用して巧妙になりすましメールを送りつけています。これに対して主要なメールプロバイダーは送受信するメールのドメイン認証を強化しており、DMARCへの対応による不正メール排除の徹底を企業に強く求めています。

例えば、米国のGoogleは2024年にDMARCに対応していない送信元からのメールを受信しないガイドラインの適用を本格的に開始しており、日本の総務省・金融庁などの各種ガイドラインでも対応を強く要請しています(※1)。

ただDMARCの導入には、XMLデータ形式の複雑なレポートの分析、ポリシーを厳格化することで

メール認証に対応していない送信元における「正当なメールの不達」が導入の壁となっています。HENNGE Domain Protectionはこうした壁を取り払う以下の機能とサービスを提供します。

※1 情報通信白書によると、2024年9月時点でDMARCはJPDメインにおいて約32.6%、IPアドレスで認証するSPF(Sender Policy Framework)は同約88.4%と、増加傾向にあります。

DMARCの可視化で導入・運用を「自走」へと導く

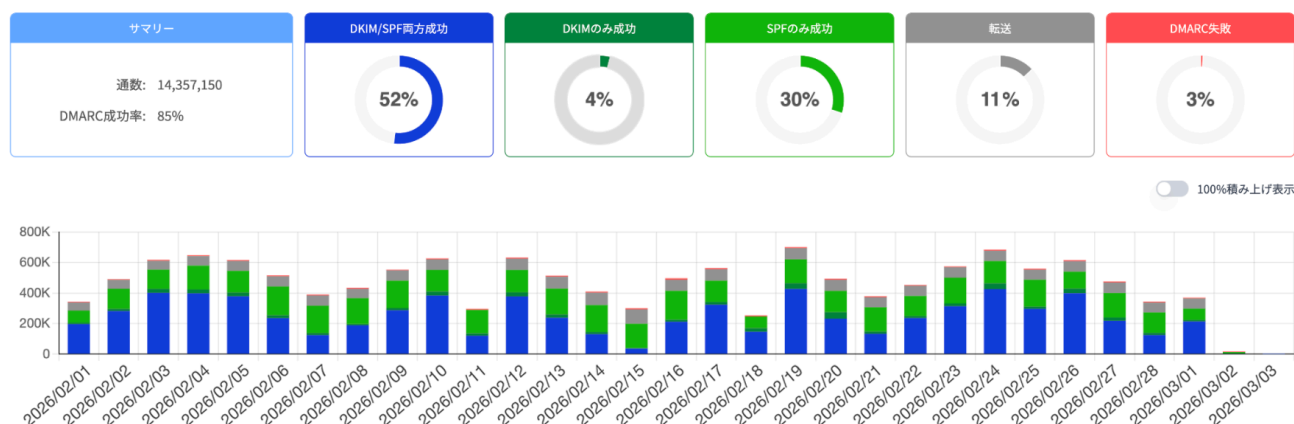


図 HENNGE Domain Protectionのダッシュボード画面。右側の赤色の「DMARC失敗」の項目を見ることで、なりすましの可能性が高いメールの有無を把握可能

HENNGE Domain Protectionは、「DMARCレコードの生成」から「データの蓄積」「分析と可視化」「ポリシー引き上げ」「継続運用」までの5ステップを支援します。

その中心となるのが、解読が難しいDMARCのレポートの直感的なダッシュボードとしての提供です。情報システム部門の管理者が自ら分析して、ポリシーの引き上げなどの判断ができるようにします。具体的には以下の手順となります。

DMARCレコードの生成: 管理画面からDMARCを設定したいドメインを入力することで、自動チェックなどを経て数ステップでDMARCレコードを払い出します。

レポート機能: わかりやすいダッシュボードで、正規、なりすまし、転送などの状況を一覧で表示します。メール送信元のIPアドレス情報を可視化し、自社のドメインを利用してメールを送っているすべての送信元を特定できます。

ポリシー引き上げ: モニタリングの結果に基づいて、設定の不備を修正するなどした上で、対処できます。具体的には、メールを受信するが迷惑フォルダに移動する「quarantine(隔離)」、メールを受信しない「reject(拒否)」へのポリシー変更(DNS設定)をスムーズに行えるよう支援します。

専門家によるDMARC導入・運用支援サービス

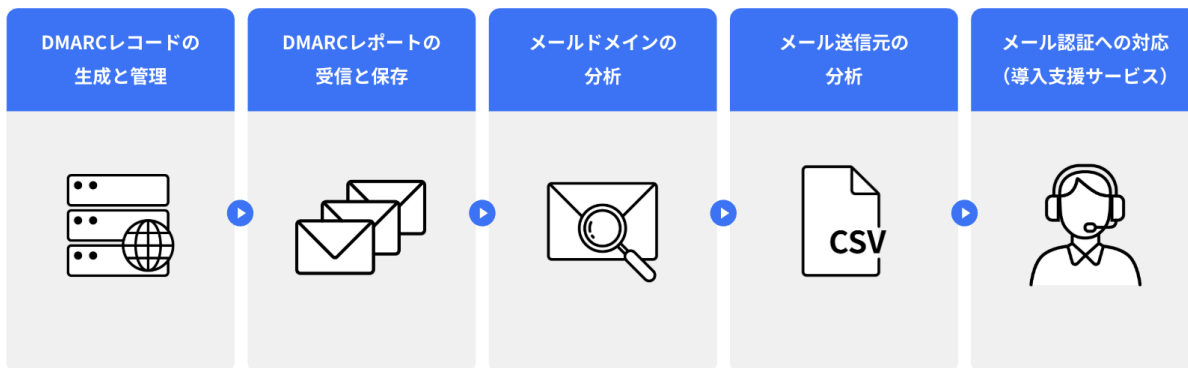


図 DMARC導入までのフロー。必要に応じて導入支援のサービスも提供します

HENNGEは、金融機関などにメールサービスを提供しているCustomers Mail Cloud事業を通じて企業メール運用の豊富な知見を蓄積しており、これらの専門家による導入・運用支援サービスを提供します。

DMARCの導入では確実なポリシー引き上げが鍵を握りますが、準備が不十分な状態でポリシーを引き上げると、正当な業務メールが届かなくなるリスクがあります。お客様のDMARCレポートをHENNGEの専門家が分析し、DMARCの導入をサポートします。

提供時期・提供形態

- ・提供開始: 2026年10月以降を予定
- ・提供形態: HENNGE OneのDLP Edition内のサービスとして提供します。

HENNGEによるサービスの初期導入は無料で提供します。

専門家による導入・運用支援サービスについては別途お見積もりのうえ提供します。

なお、サービス料金、EditionやSuiteのパッケージについては提供開始時に公表いたします。

DMARCについて

DMARC (Domain-based Message Authentication, Reporting & Conformance) とは、ドメイン認証技術の1つです。企業や団体が発信したメールが、正当なものであることを受信側のサービス提供者が認証することで、なりすましメールやフィッシング詐欺などの攻撃を防止します。

相手側が受信したメールについて、送信側の管理者のほうでドメイン認証が失敗した場合の受信拒否などの処理を指定できるという特長もあります。

BIMIについて

BIMI (Brand Indicators for Message Identification) は、正規のメールとなりすましメール等を受信者自身の目でも見分けやすくするため、正規のメールには送信者が商標登録したブランドロゴをアイコンとして表示する仕組みです。DMARC認証と、認証局が発行するVMC (Verified Mark Certificate) と呼ばれるデジタル証明書を組み合わせることで実現し、認証に成功したメールのみにブランドロゴを表示することで、送信元の正当性をわかりやすく証明します。

■ Customers Mail Cloud について

Customers Mail Cloudは銀行、クレジットカード、保険、証券等の大手金融機関をはじめ、大

手通信キャリア、官公庁・自治体など幅広い業種の企業・団体に利用されているクラウド型メール配信サービスです。

特に、ログイン通知や取引確認といった機密性の高いメールにおいては、最新の配信規格への準拠（SPF、DKIM、DMARCといったなりすまし対策）と、日々変化し続けるプロバイダー側の配信環境への柔軟な適応力が必須です。

専門性の高いクラウド型SMTPリレーサービスとして、これらの高度なセキュリティ要求と配信の確実性を両立しています。

■HENNGE Oneについて

HENNGE Oneは、組織の生産性向上を実現する国内シェアNo.1（※2）のクラウドセキュリティサービスです。生産性向上には、SaaSをはじめとする最新テクノロジーの活用が不可欠ですが、そこにはゼロトラストセキュリティの構築など様々な課題が存在します。

HENNGE Oneでは3つのEditionを提供し、これらの課題を解決します。複数のシステムIDをまとめて保護し、効率的な働き方を実現する「Identity Edition」、組織に散在するデータの意図せぬ漏えいを防ぐ「DLP Edition」、人、プロセス、デバイスの全方位でサイバー攻撃から守る「Cybersecurity Edition」です。

導入と運用のハードルを下げるセキュリティサービスでゼロトラストを具現化し、テクノロジーの解放を実現します。

URL: <https://hennge.com/jp/service/one/>

■HENNGE株式会社（へんげ）について

「テクノロジーの解放で、世の中を変えていく。」を経営理念に、テクノロジーと現実の間のギャップを埋める独自のサービスを開発・販売しているSaaS企業です。シングルサインオン（SSO）、アクセス制御、メールやファイル共有のセキュリティ、ゼロトラストに基づいた端末の防御・管理など多岐にわたる機能を備えた国内シェアNo.1（※2）のクラウドセキュリティサービス「HENNGE One」、クラウド型メール配信サービス「Customers Mail Cloud」を提供しています。1996年11月に創業し、2019年10月、東京証券取引所マザーズ市場（現グロース市場）に上場しました。

社名の「HENNGE（へんげ）」は「変化（HENNKA）」と「チャレンジ（CHALLENGE）」を組み合わせ、あらゆる変化に挑むとの決意を表しています。

会社名：HENNGE株式会社

証券コード：4475

所在地：東京都渋谷区南平台町16番28号 Daiwa渋谷スクエア

代表者：代表取締役社長CEO 小椋 一宏

URL: <https://hennge.com/>

※2 ITR「ITR Market View: アイデンティティ・アクセス管理／個人認証型セキュリティ市場2025」IDaaS市場：ベンダー別売上金額シェアにて2021年度、2022年度、2023年度、2024年度予測の4年連続で1位を獲得

<本リリースに関するお問い合わせ先>

HENNGE株式会社

Corporate Communication Division

TEL: 03-6415-3660

E-mail: hennge-pr@hennge.com 担当: 市嶋・矢野

本プレスリリースに記載されている会社名、製品名、サービス名は、当社または各社、各団体の商標もしくは登録商標です。